



## 科学にふれる ～小さな研究者たち～

11月26日（日）に、佐世保市総合教育センターで「第15回下村脩ジュニア科学賞 SASEBO」の表彰式がありました。この賞は、佐世保市出身のノーベル化学賞受賞者下村脩先生の業績を称えるとともに、子どもたちに科学の面白さを味わわせ、将来にわたって深く科学を追究していこうとする意欲をもたせることにより、佐世保市から再び下村脩先生のような、世界的に活躍する人材が育つことを目的として、平成21年につくられたものです。今回、本校5年生の本村 充 さんが「セミが水分を保つために ーセミのぬけがらからわかったことー」の研究で、見事に「下村脩ジュニア科学賞」を受賞しました。

今年度の下村脩ジュニア科学賞 SASEBO の応募総数は3,038 作品。大豆の成長の様子を観察してわかったことをまとめた作品、割れにくい究極のシャボン玉液づくりに挑戦した作品、生き物の生態や体の構造を調べた作品など、いろいろなテーマの作品が見られました。テーマはいろいろですが、どの作品も、子どもたちの「なぜ?」「どうして?」という疑問から研究が始まっています。ところで、イギリスの科学者であるアイザック・ニュートンが、リンゴが木から落ちるところを見て万有引力の法則を発見したという逸話はとても有名です。「リンゴが木から落ちる」という一見当たり前前だと思われる出来事に「なぜ?」「どうして?」という疑問をもつことが、新しい発見にはとても大事だということがよくわかります。子どもたちにも、他の人が気づかない「なぜ?」「どうして?」が、まだまだあるのかもしれない。一人一人の子どもたちの「なぜ?」「どうして?」を学びの出発点にしたいと改めて感じました。

また表彰式の審査講評では、代表の審査委員の先生から、研究するときに大切なお話を二ついただきました。一つは「自分の手で、自分の目で、自然を見つめてほしい」ということ。インターネットで答えを見つけたり、大人に教えてもらったりしたことはすぐに忘れるが、自分の手で、自分の目で調べたことは忘れないというお話でした。もう一つは「(研究で)背伸びをしすぎないでほしい」ということ。小学生が、中学生や高校生のような研究をすると、すぐに壁にぶつかっていやになってしまうので、ゆっくり、しっかり成長してほしい。そのためには、子どもに関わる大人も、焦らず、急がず、手を出し過ぎないでというお話でした。とても大切なことを教えていただきました。

考えてみると、私たちの身の周りには「科学」があふれています。私たちの生活の基礎となる衣食住を取り上げてみても、衣服の一つ一つに、食べ物の一つ一つに、住居や暮らしの一つ一つに、科学の力や科学の歴史が見えてきます。私たちの生活は、科学によって、またそれを築き上げてきた人々の研究によって支えられてきたといっても過言ではありません。そしてこれからの科学を創り上げていくのは、今、目の前にいる子どもたちであるということも。

第15回下村脩ジュニア科学賞 SASEBO の受賞作品は、佐世保市少年科学館に展示されています。小さな研究者たちが、自分なりの課題やめあてをもち、予想を立て、調べたり観察したり実験したりして得た結果をもとに、自分なりに考察をしてまとめた力作ばかりです。ぜひこの機会に、小さな研究者たちの作品をご覧になられてはいかがでしょうか。

### 第15回下村脩ジュニア科学賞 SASEBO 受賞者作品展

〔期間〕令和5年11月26日（日）～12月17日（日）※火曜休館、開館時間は9時～17時  
〔会場〕佐世保市少年科学館（佐世保市総合教育センター内） 佐世保市保立町12-31